

開会式

日 時：令和2年1月30日（木）8：45～9：00

会 場：A会場 放光の間・左（4階）

基調講演

大学病院の現状と課題

日 時：令和2年1月31日（金）9：00～10：00

会 場：A会場 放光の間・左中（4階）

座 長：前島 一実（秋田大学 医学系研究科・医学部事務部）

演 者：石丸 成人（文部科学省 高等教育局 医学教育課 大学病院支援室長）

セッション

1 病院マネジメント（事務）

事務職員発！！病院の持続的な発展を支える経営改善・業務改善

日 時：令和2年1月30日（木）13：45～15：45

会 場：A会場 放光の間・左（4階）

座 長：前島 一実（秋田大学 医学系研究科・医学部事務部）

医療制度の改革、診療報酬改定、働き方改革、消費税増税など医療を取り巻く環境や社会情勢が大きく変化する中で、各大学病院において、病院運営を支えるべく、経営改善・業務改善に向けた様々な取り組みがなされているところです。

そこで、今回の事務セッションでは全国大学病院において、事務職員から提案・発案し、経営改善、業務改善の成果が得られた事例や特色ある取り組みについて、ご紹介いただきます。

1. RPA を活用した業務効率化について

～経理作業への適用を経験して～

白木 康浩（信州大学医学部附属病院 経営管理課）

2. 患者さんに安全と安心を！！多職種で取組む入院前支援業務

～周術期・術前外来機能の拡充～

小林 耕太（滋賀医科大学 会計課病院経営企画室）

3. スマートフォンを利用した外来患者呼び出しシステムの試験導入

大塚 千春（鳥取大学 米子地区事務部 医事課）

4. 経営改善に向けて事務職員から提案した取組

～経営戦略企画室を有効に活用した取組～

遠田 和也（秋田大学医学部附属病院 企画管理課経営担当）

5. クリティカルパスの見直しで支出削減！

中島 海斗（長崎大学病院 事務部 経営管理課 経営戦略室）

6. IR プロジェクト X ～挑戦者たち～

— 未踏の診療科「精神科神経科」に切り込む —

三好 敏子（徳島大学病院 経営企画課 経営企画係）

7. 加算指導料算定チェック

～収入増に向けた取り組み 無菌治療室管理加算 2～

山口 永真（岐阜大学医学部附属病院 経営企画課 経営分析係）

2 病院情報システム

病院情報システムの導入・運用管理における課題や悩み

～病院情報システムの継続的な発展と利活用のために～

日 時：令和2年1月30日（木）10：40～12：10

会 場：A 会場 放光の間・左（4階）

担 当：秋田大学医学部附属病院 医療情報部

病院情報システムは、医事会計システムに始まり、オーダ・エントリシステムを経て、病院業務に不可欠な総合的な情報システムへと発展してきた。これは医療機関とシステムベンダとの長年に渡る不断の努力によるものであり、導入を重ねる毎に医療機関の様々な工夫や先駆的な取り組みが取り入れられ、システム更新を重ねることで進歩を遂げてきた。そして近年、情報通信技術の進歩は今まで以上に加速し、医療機関に蓄積された情報の利活用も一層大きく期待されている。本セッションでは、このような医療機関における情報化の大きな流れの中で、病院情報システム部門がシステム導入や日々の管理運用で抱える課題や悩みなどについて、幅広く意見交換する場としたい。

3 部長会

大学病院が考えておくべきサーバーテロ対策

日 時：令和2年1月30日（木）09：00～10：30

会 場：A 会場 放光の間・左（4階）

オーガナイザー兼座長：近藤 博史（鳥取大学医学部附属病院 医療情報部）

オーガナイザー兼座長：遠藤 晃（北海道大学病院 医療情報企画部）

2020年はオリンピックの年であり、サーバーテロの危険が言われている。病院は社会基盤としてサーバーテロターゲットの一つであり、大学病院は各地域の医療の中心として十分な対策を講じて、周囲の医療機関を支援する必要がある。一方、学内、院内には研究者、学生、患者等様々に人々がおり、様々な情報ネットワークが交錯している。そこで、部長会セッションとしては、サイバーテロの専門家を招いて最新の情報を取得し、医療情報部門が準備しておくべき対策を議論することにした。

- 演者 1. 高倉 弘喜（国立情報学研究所 サイバーセキュリティ研究開発センター）
演者 2. 林 薫（パロアルトネットワークス株式会社）
演者 3. 西山 隆司（日本 IBM 株式会社 IBM セキュリティ事業本部）
演者 4. 淵上 真一（日本電気株式会社 サイバーセキュリティ戦略本部
セキュリティ技術センター）
演者 5. 美代 賢吾（長崎大学大学院 グローバルヘルス・熱帯医学研究科
国立研究開発法人国立国際医療研究センター
医療情報基盤センター）

4 診療情報管理

インフォームド・コンセント、診療記録監査について

日 時：令和2年1月30日（木）10：40～12：10

会 場：C会場 矢留の間・右（4階）

オーガナイザー兼座長：初山 貴（北海道大学病院 経営企画課）

座 長：黒田 由紀（山形大学医学部附属病院 医事課 診療情報管理担当）

2016年度に特定機能病院の承認要件見直し（医療施行規則の一部改正）が実施され、3年が経過する。インフォームド・コンセント、診療記録監査の項目において、各大学病院の取り組みを取りあげ、意見交換を行う。

1. IC ガイドラインに沿った診療内容説明書の作成と診療録監査の試み

岩壁 央（横浜市立大学附属病院 医学・病院統括部 医事課）

2. インフォームドコンセント記載のモニタリングについて

井上 麻里子（福井大学医学部附属病院）

3. 診療記録の質的監査への取り組み

～診療情報管理士監査から多職種監査への始動～

三浦 ゆみ（東北大学病院 医療情報室）

4. 当院における質的カルテ監査

三輪 美穂（九州大学病院 医療管理課）

5 看護

意思決定支援における情報の果たす力

日 時：令和2年1月30日（木）09：00～10：30

会 場：B会場 放光の間・中（4階）

オーガナイザー：白川 秀子（秋田大学医学部附属病院 看護部）

座 長：大北 美恵子（福井大学医学部附属病院 看護部）

医療を取り巻く環境の急激な変化、高齢化及び疾病構造の変化などにより患者像は複雑化し

ています。大学病院は地域の中核的医療機関として、限られた在院日数で高度かつ効果的な医療を提供し、患者を速やかに地域へつなぐための重要な役割を担っています。その中で患者・家族は治療、退院先、看取りなど様々な場面において意思決定をしなければならない場面に遭遇します。最善の決定をするために、患者の最も近くでケアを担う看護職による支援の重要性は高く、同時に十分な情報の伝達・共有・活用なくしては支援が成り立ちません。

本セッションでは、患者の意思を尊重し、支えつなぐために、医療従事者と患者・家族、多職種、地域における情報の集約・活用方法など各施設の取り組みや課題を共有し、よりよい意思決定支援につなげるために考えていきたいと思えます。

1. 外来からの意思決定支援

小松 千賀子（秋田大学医学部附属病院 看護部）

2. 病棟から発信する ACP

－患者の揺れる思いをつなぐための取り組み－

牧野 路子（福井大学医学部附属病院 看護部）

3. 揺れ動く患者の思いをチームで寄り添い支え続ける

稲田 範子（北海道大学病院 6の2 ナースステーション）

4. 多職種と共有できる患者情報の在り方について

～患者プロフィールと看護プロフィールの一元化を目指して～

櫻田 京子（東北大学病院 看護部 情報・リサーチ）

5. よりよい意思決定支援に向けた看護部委員会での取り組み

森田 理恵（鳥取大学医学部附属病院 看護部）

6 歯科

歯科情報の標準化と院内・地域連携における利活用

日 時：令和2年1月30日（木）09：00～10：30

会 場：C会場 矢留の間・右（4階）

オーガナイザー兼座長：鈴木 一郎（新潟大学医歯学総合病院 患者総合サポートセンター）

座 長：福田 雅幸（秋田大学医学部附属病院 歯科口腔外科）

医療情報の電子化と標準化が進むなか、日本における歯科分野の標準規格としては、標準歯科病名マスターが厚労省標準規格として広く利用されており、また現在、標準歯式コードおよび口腔診査情報標準コードが標準規格に向けて審査中である。本セッションでは、まず歯科領域の標準化の動向につき概説いただく。次いで、院内や地域の医科歯科連携における歯科情報の利活用の現状につき、いくつかの事例を報告いただく。最後に、今後の歯科医療情報の電子化、標準化と連携における利活用の方向性につき、フロアの皆さんと議論を深めたい。

1. 口腔診査情報標準化の現状と今後の展望

玉川 裕夫（大阪大学 歯学研究科）

2. 大学附属病院における診療情報の解析による医療安全向上の取り組み

守下 昌輝（九州歯科大学 口腔機能学講座 クリニカルクラーク
シップ開発学分野
九州歯科大学附属病院 診療情報管理室）

3. 秋田大学医学部附属病院における医科歯科連携への取り組みと周術期口腔機能管理の実際

高野 裕史（秋田大学医学部附属病院 歯科口腔外科）

4. 秋田県における医科歯科連携の取り組み

畠山 桂郎（秋田県歯科医師会）

7 薬剤

業務効率化を図るための情報共有ツールを考える

日 時：令和2年1月30日（木）13：45～15：15

会 場：D会場 矢留の間・左（4階）

オーガナイザー兼座長：三浦 昌朋（秋田大学医学部附属病院 薬剤部）

オーガナイザー兼座長：後藤 伸之（福井大学医学部附属病院 薬剤部）

医薬品を適正かつ安全に使用するためには、医薬品情報と患者情報を効率よく紐付け、これら情報を部署内・間、職種内・間、施設内・間の intra-、inter- で効率よく共有し合うことが求められる。そのための情報共有ツールの構築が必要であるが、十分に対応できていないのが現状である。

本セッションでは、情報を効率よく入手し、intra-、inter- での連携を効率よく進めるためのツールや我々の方向性について、各施設での取り組みを参考に皆でディスカッションしたいと考える。

1. 持参薬鑑別システムの構築と処方連動および医事課との連携

加賀谷 英彰（秋田大学医学部附属病院 薬剤部）

2. 院外処方箋への臨床検査値印字と院外薬局との情報共有

横山 威一郎（千葉大学医学部附属病院 薬剤部）

3. 薬剤業務における「TO DO CARD」

幸田 恭治（山口大学医学部附属病院 薬剤部）

4. 医薬品副作用自動監視システムによるシグナル検出と情報連携による副作用予防効果

五十嵐 敏明（福井大学医学部附属病院 薬剤部）

5. 医薬品情報管理・共有のシステム化と自然言語 AI の応用

神崎 浩孝（岡山大学病院 薬剤部 人工知能応用メディカルイノベーション創造部門）

8 放射線・医用画像管理

医療安全から放射線システムの活用を考える

日 時：令和2年1月30日（木）10：40～12：10

会 場：B会場 放光の間・中（4階）

オーガナイザー兼座長：坂本 博（東北大学病院 診療技術部放射線部門）

オーガナイザー兼座長：照井 正信（秋田大学医学部附属病院 中央放射線部）

日々の放射線検査を安全に施行するために、医療安全の観点から放射線システムを構築・連携することは重要と思われまます。本セッションでは活用している事例として造影剤情報の連携、被ばく情報の管理、レポートの既読管理について紹介して頂き、現状や課題も含めて情報共有したいと思います。

関連する各職種スタッフが連携し、安全に検査を遂行し次回検査に繋ぐことが重要と考えられます。そのためには、システムを上手く活用して、関連する部門、診療科に適切に情報発信することが必要と考えまます。セッションを通じてこれらをさらに有効活用するための課題や展望について議論したいと思います。

1. 造影検査情報のシステム連携と標準化

～DICOM, IHE の対応～

坂本 博（東北大学病院 診療技術部放射線部門）

2. 造影剤副作用歴をはじめとしたシステム連携

白坂 直哉（秋田大学医学部附属病院 中央放射線部）

3. 線量管理システムの運用

池田 龍二（熊本大学病院 中央放射線部）

4. レポート既読管理と所見伝達システムの運用

相田 雅道（広島大学病院 診療支援部 画像診断部門）

9 検査

検査部の価値を高める協働の展開

日 時：令和2年1月30日（木）15：25～16：55

会 場：D会場 矢留の間・左（4階）

オーガナイザー兼座長：植木 重治（秋田大学大学院 総合診療・検査診断学講座）

オーガナイザー兼座長：小林 則子（秋田大学医学部附属病院 中央検査部）

現在の臨床検査は医療におけるインフラである。一方でその価値をいかに高めることができるかが問われている。異なる視点や立場からの取り組みを共有することで、新しい気付きと課題が得られることを期待する。

1. イントロダクションにかえて：検査部の組織横断的業務と貢献

小林 則子（秋田大学医学部附属病院 中央検査部）

2. 細菌検査のデータ共有とネットワークの構築, その課題

植木 重治（秋田大学大学院 総合診療・検査診断学講座）

3. 臨床検査部における医療情報部との連携による新分野の開拓

神田 晃（関西医科大学附属病院 臨床検査部）

10 地域連携

つなぐ ひろがる 地域連携

日 時：令和2年1月30日（木）15：25～16：35

会 場：C会場 矢留の間・右（4階）

オーガナイザー：岡崎 光洋（東京大学大学院 薬学系研究科医薬政策学）

座 長：安藤 秀明（秋田大学大学院 医学系研究科 保健学専攻 臨床看護学講座、
秋田大学医学部附属病院 緩和ケアセンター、
地域医療患者支援・がん相談支援センター、
総合臨床教育研修センター）

超高齢社会を迎え人口構造が大きく変化する中、地域包括ケアシステムの構築、地域医療連携構想等による病床機能分化・連携の推進、病院医療から在宅医療への転換が求められている。特に、病院と地域をつなぐ窓口である地域連携部門は、医療連携・地域連携を推進するため、大いにその役割発揮が期待されている。患者サービスはもちろんのこと、病院経営においても重要な位置づけの部門となっており、年々、業務は多様化、煩雑化している。一方、社会の変化や高齢化に伴い患者像や家族背景も複雑化しており、多様な課題を抱えた患者が増加している。このような現状を踏まえ、地域医療の中核的役割を果たす大学病院の地域連携部門は、院内外の関係機関と創意工夫しながら連携を図り、地域の包括的な支援・サービス提供体制の構築に取り組んでいくことが求められている。

本セッションでは、切れ目ない情報提供と情報の共有、そしてそのあり方、連携について、創意工夫しながら先駆的に取り組んでいる方々からご報告いただき、つなぎ、ひろがる地域連携のあるべき姿と課題について、議論を展開したいと考える。

1. 行政や関係機関との連携・協働によるがん患者支援

～秋田県がん診療連携協議会がん患者相談部会の取り組み～

秋山 みどり（秋田大学医学部附属病院 地域医療患者支援・がん相談支援センター）

2. 地域包括ケアシステムのなかでの病診連携

～在宅療養支援外来の効果～

市原 利晃（医療法人社団隆仁会 秋田往診クリニック）

3. 患者の想いに寄り添う、患者・家族中心の地域医療・介護連携を支える ICT ツール
～ 地域包括ケア支援システム「ナラティブブック秋田」～
伊藤 伸一（秋田県医師会）

11 臨床研究・治験

臨床研究中核病院での医療情報二次利用の取組み

日 時：令和2年1月30日（木）13：45～15：15

会 場：C会場 矢留の間・右（4階）

オーガナイザー：中山 雅晴（東北大学病院 メディカル IT センター）

オーガナイザー兼座長：白鳥 義宗（名古屋大学医学部附属病院 メディカル IT センター）

座 長：中島 直樹（九州大学病院 メディカルインフォメーションセンター）

日本では医療 Real World Data (RWD) の利活用が十分に行われているとは言い難く、先行する国々に遅れを取っている感がある。そのため、臨床研究中核病院では2018年度よりAMED事業「医療技術実用化総合促進事業」の中で、RWDの利活用に関する取り組みを前向きに推進することを目的に取り組みを行っている。具体的には「クリニカルクエスチョンをはじめとする広範な課題に Real World Evidence (RWE) として回答できる持続可能な臨床研究基盤の構築を通じ最適な医療の実現に貢献する」というビジョンと1) 高い品質を確保するデータ管理、2) 将来的な拡大を見据えたシステム設計、3) 基盤を維持する自立的なエコシステムの検討・整備、4) これらを支える人材育成の実施というミッションを掲げ、ワーキンググループ (WG) の下に2つのサブワーキング (SWG) を設置し、有効なユースケースや必要な人材の育成についての議論を進めているので、本セッションではその内容を御紹介したい。

1. 全体構想

白鳥 義宗（名古屋大学医学部附属病院 メディカル IT センター）

2. データの収集及びバリデーションについて (SWG1)

中山 雅晴（東北大学病院 メディカル IT センター）

3. 人材育成について (SWG2)

中島 直樹（九州大学病院 メディカルインフォメーションセンター）

4. ARO が関与して研究利用を見据える医療情報の可能性

竹村 亮（慶應義塾大学病院 臨床研究推進センター）

12 テーマセッション（医療安全）

医療安全の向上のための病院情報システムの機能

日 時：令和2年1月30日（木）13：45～15：15

会 場：B会場 放光の間・中（4階）

オーガナイザー兼座長：松村 泰志（大阪大学医学部附属病院 医療情報部）

座 長：大原 信（筑波大学附属病院 医療情報経営戦略部）

医療は益々高度化され、効果があるが使い方を間違えると危険な治療が導入されるようになった。また、多専門科、多職種が連携するチーム医療体制となっているが、有効に機能するためには情報連携が重要となっている。医療の現場では、様々な複雑な状況があり、幾つかの要因が重なって不適切な医療に繋がる経験されている。これらは、医療者への注意を呼びかけるだけでは防ぎることができない。病院情報システムは、医療の効率化や請求漏れの防止を目的に開発されてきた経緯があるが、医療の安全性を向上させるための働きにも期待が寄せられている。本セッションでは、各病院で医療安全向上のために工夫したシステムについて、その内容、効果、導入上の工夫等について紹介して頂き、情報を共有する。

1. 医療安全に資する病院情報システムの構築

～筑波大学附属病院の事例紹介～

大原 信（筑波大学附属病院 医療情報経営戦略部）

2. レポートおよび画像の未読管理システムを利用した読影レポート見落とし対策

～NEC 社電子カルテ MegaOak HR 上に富士フィルムメディカル社 CITA を連携させたシステム構築～

松本 武浩（長崎大学病院 医療情報部）

3. 集中治療部門における重症系指示システムの利用停止と基幹電子カルテシステムへの移行

岡本 和也（京都大学医学部附属病院 医療情報企画部）

4. 医療安全に資することを目的とした臨床意思決定支援システムの現状

～山口大学医学部附属病院の事例紹介～

石田 博（山口大学医学部附属病院 医療情報部）

5. 免疫抑制・化学療法により発症する B 型肝炎再活性化防止への取り組み

武田 理宏（大阪大学医学部附属病院 医療情報部）

13 テーマセッション（診療パフォーマンス）

大学病院におけるパフォーマンスの公表に関する現状と課題

日 時：令和 2 年 1 月 30 日（木）15：25～16：55

会 場：B 会場 放光の間・中（4 階）

オーガナイザー：大坪 徹也（東京大学医学部附属病院 国立大学病院データベースセンター）

座 長：興梠 貴英（自治医科大学 医療情報部）

わが国における診療パフォーマンスを公表する取り組みは、国の後押しもあり、社会の趨勢になりつつある。一方、大学病院では、診療、教育、研究をはじめとした多角的な活動に関するパフォーマンスを測定し、パブリックリレーションズの一環として、測定結果を公表する取り組みが望まれる。こうした取り組みにおいて、「何のために何をどのように測定するか」、「何を社会へのメッセージとするか」などについて全病院的かつ継続的な課題として認識することが重要となる。

本セッションでは、大学病院における取組みの現状について共有し、その展望と課題について扱う。各演者による講演後、パフォーマンスの測定や公表のあり方についてフロアの意見も含めて議論したい。

1. 国立大学病院における病院機能指標の公表の実態と課題

大坪 徹也（東京大学医学部附属病院 国立大学病院データベースセンター）

2. 国立大学病院における臨床研究パフォーマンス調査の構築

～国立大学病院長会議将来像実現化ワーキング研究 PT における検討～

笠井 宏委（京都大学医学部附属病院）

3. 信州大学医学部附属病院における国立大学病院機能指標の公表について

～本院独自の QI 項目設定の取り組みの紹介を兼ねて～

浜野 英明（信州大学医学部附属病院 医療情報部）

4. 国立大学病院・病院機能指標による自院の評価

興梠 貴英（自治医科大学 医療情報部）

共催セミナー

ランチョンセミナー 1

ソニービジネスソリューション株式会社

デジタル・トランスフォーメーション（DX）協創

日 時：令和 2 年 1 月 30 日（木）12：30～13：30

会 場：A 会場 放光の間・左（4 階）

座 長：金谷 二郎（ソニービジネスソリューション株式会社 デジタルペーパー事業推進室）

演 者：東倉 雄三（ソニービジネスソリューション株式会社 メディカル営業部）

演 者：島井 健一郎（千葉大学医学部附属病院 病院長企画室）

ソニーは、放送局や映画など最先端の映像分野でエレクトロニクス技術を培ってまいりました。医療分野においても、1980 年代より手術室や検査室で使用するモニターやプリンター、カメラを提供しています。近年では 2013 年にオリンパス株式会社との医療事業合弁会社ソニー・オリンパスメディカルソリューションズ株式会社を設立し、4K 技術や 3D 映像技術を活用した革新的な外科イメージング機器の開発を行い、2016 年には海外で実績のある手術映像システム会社を買収するなど、医療分野における提案の幅を広げつつあります。

現在、医療 ICT ソリューションに着目し、日本の病院が抱える様々な課題に、他分野で培った ICT 技術・知見をもって、解決策を提案できるよう務めています。

地域包括ケア・少子超高齢化社会において、地域の要となる大学病院をはじめとした医療機関や、地域医療の効率的な情報化をともに構想・支援する他ベンダーとの協創は肝となります。

本セミナーでは、進化し続ける手術室の映像情報システムを中心としたソニーの取り組みと、約 5 年来取り組んできたデジタルペーパーを用いた医療分野のデジタル・トランスフォーメーションの展望について、紹介します。

ランチョンセミナー 2

エヌビディア合同会社

健康ビッグデータと新健診モデルがもたらす『寿命革命』、
そして NVIDIA 仮想 GPU によるヘルスケアイノベーション
(弘前大学 COI と NVIDIA によるコラボセッション)

日 時：令和 2 年 1 月 30 日 (木) 12:30~13:30

会 場：B 会場 放光の間・中 (4 階)

司 会：堀内 朗 (エヌビディア合同会社)

司 会：藤山 裕子 (エヌビディア合同会社)

演 者：村下 公一 (弘前大学 COI 研究推進機構 (健康未来イノベーションセンター))

演 者：後藤 祐一郎 (エヌビディア合同会社)

弘前大学 COI は、これまで約 15 年に渡り 2000 を超える多項目健康ビッグデータを健常人から取得、蓄積しています。これらのビッグデータを基軸に、短命県でもある青森県の社会課題の解決に向けて行動変容を推進するだけでなく、新健診モデル「QOL (啓発) 健診」を通して世界人類の健康づくりへの貢献 (SDGs) を目指しているとのこと。この講演では「寿命革命」を旗印に参画する産学官民による強力なチームによるこれまでの取り組みと、今後さらに進むであろう健康ビッグ データ、AI の利活用における課題と戦略的アプローチなどについてお伝えします。また GPU で世界中のコンピューティングやグラフィックスをリードするエヌビディアからは、ヘルスケアにおける画像処理、解析、予知予見などにおける AI、診療 / 創薬 / 研究などが身近になる、仮想 GPU でのフレキシブル ワークロードについてご紹介します。

ランチョンセミナー 3

株式会社ダイコク・システム・サービス

日 時：令和 2 年 1 月 30 日 (木) 12:30~13:30

会 場：C 会場 矢留の間・右 (4 階)

座 長：大佐賀 敦 (秋田大学医学部附属病院 医療情報部)

1. 医療現場における RFID の導入と活用

花田 英輔 (佐賀大学理工学部 知能情報システム学科)

近年、様々な場面で RFID が活用されており、医療現場における活用例も増えつつある。RFID の活用は、労働効率の向上のみならず、患者安全の向上にもつながる。また、データの収集を正しく設計し実施することで対象のトレーサビリティを確保でき、様々な改善に向けた情報の提供が可能となる。

このセミナーでは、RFID の基礎的技術について説明すると共に、医療現場において活用が期待される場面を説明する。その上で、秋田大学病院をはじめとする、病院業務への RFID の導入事例とその効果を示し、さらに導入に向けた注意点を示す。

これらにより現場における理解を深め、導入による医療の生産性および安全性の向上に役立つことを期待する。

2. 診療材料における個体識別管理の運用と活用

中山 誠一（株式会社 ダイコク・システム・サービス）

人件費に次いで費用比率を占めているのが材料費となっています。

しかしながらコンビニエンスストアなどに代表される物流管理手法と比較され「医療界の物流管理は、一般産業に比べて10年以上遅れている」などとも言われてきました。

その中で弊社（ダイコク・システム・サービス）はいち早く、物流管理システムの構築を行い、材料の購買、保管（＝在庫）、使用、請求という実績と情報の物流を効率よく管理し、遂行・把握・分析・改善を行っていくための仕組みを考えてきました。現在、医療施設の物流管理は他業界に負けないほどに進化してきました。

弊社では秋田大学医学部附属病院様をはじめ全国12の国公立大学病院にて、個別識別管理レベルを利用して所在管理＝「個別追跡」を徹底的に行い、不要在庫の削減のみならず、患者別診療科別の消費管理により医事請求支援を行っています。

又、リコール等の不具合などのトレーサビリティも個別に管理することが可能となっております。

消費管理としては回収の二重読み取りができない仕組み＝「個別識別コード」により汎用性のある精度の高い情報の取得を可能にしております。

ランチョンセミナー4

アラクサラネットワークス株式会社

IoT時代の医療情報システムのセキュリティに関する考察

日 時：令和2年1月30日（木）12：30～13：30

会 場：D会場 矢留の間・左（4階）

司 会：鈴木 伊知郎（アラクサラネットワークス株式会社）

演 者：黒田 知宏（京都大学医学部附属病院 医療情報企画部）

近年多くの医療機器が情報ネットワークに直接・間接に接続されるようになり、医療情報システムはIoT時代を迎えようとしていると考えられる。

一方、これらのIoT化された医療機器の情報セキュリティ管理は、現時点で適切に行われているとは言いがたい。

では、IoT時代の情報セキュリティ対策は度のようにされねばならないのだろうか？

本講演では、講演者なりに近年考えていることを述べてみたい。

演 者：小林 春樹（アラクサラネットワークス株式会社 マーケティング部）

患者の個人情報や医療記録といった多くの機密情報を扱っている医療機関では、ネットワークのセキュリティリスクをきちんと把握した上で、セキュリティ対策の強化を検討していくことが求められています。本セッションでは、既設のネットワーク機器を入れ替えずにできるセキュリティ対策を提案します。また、日々のネットワーク運用を楽にする最新の運用管理ソリューションも紹介します。

※アラクサラネットワークスは、快適で安心して使えるネットワークを提供することで豊かな情報通信社会の実現をめざし、2004年にNECと日立が合弁設立した国内トップクラスのネットワーク製品メーカーです。

スイーツセミナー

富士フィルムメディカル株式会社

医療の質・安全性の向上と働き方改革を推進する 統合診療支援プラットフォーム CITA/Yahgee の最新動向

日 時：令和2年1月30日（木）16：45～17：45

会 場：C会場 矢留の間・右（4階）

演 者：平川 毅（富士フィルムメディカル IT ソリューションズ株式会社）

当社の統合診療支援プラットフォーム「CITA Clinical Finder」と診療文書管理・診療業務支援ソリューション「Yahgee」は、院内の様々な診療情報を統合・活用し、医療の質・安全性の向上や働き方改革の推進に向けた業務の効率化・省力化の取り組みを行っている。

例えば、近年注目が高まっている入退院支援に関しては、2020年度の診療報酬改定でも更なる拡充が議論されているが、CITAを活用した業務の質向上や効率化の事例が増加している。

また標準化に関しては、「HL7 CDAに基づく退院時サマリー規約」や「レポート見落とし防止対策システムの機能仕様項目」が発表され話題となっているが、Yahgeeは、いち早くこの標準形式の退院時サマリーに対応した他、CITAの既読管理機能も標準仕様項目の多くをカバーしている。

今年度リリースした新バージョンでは、富士ゼロックス社の「ProRecord Medical」の機能を統合し、診療情報の長期アーカイブにも対応した。

本セミナーでは、このような当社システムの新機能や標準仕様への対応状況、ユーザーでの活用事例など、最新の動向を紹介する。

総会・閉会式

日 時：令和2年1月31日（金）10：05～11：30

会 場：A会場 放光の間・左中（4階）

ポスター発表

日 時：1月30日（木） 9：00～17：50

1月31日（金） 9：00～11：30

立 会：1月30日（木）16：50～17：50の間で各演題15分間

（演題ごとの立会時間は、ポスターパネルに掲示いたします。）

会 場：ポスター A 会場（4階 放光の間 ホワイエ）

P1-01～34（看護）、P4-01～06（薬剤）、P6-01（検査）、
P8-01（地域連携）

ポスター B 会場（3階 天平の間）

P2-01～06（診療情報管理）、P3-01～13（病院情報システム）、
P7-01～05（臨床研究・治験）

ポスター C 会場（3階 弥生の間）

P5-01～33（病院マネジメント（事務））

1 看護

ポスター A 会場(4階 放光の間 ホワイエ)

- P1-01 多職種とのリスクアセスメントカンファレンスの効果
佐々木 京子（秋田大学医学部附属病院 看護部）
- P1-02 「重症度、医療・看護必要度」の記録を必要・充分に行うために
高木 由里（東京医科歯科大学医学部附属病院 看護部）
- P1-03 患者総合支援センターの円滑な運用
～円滑な入退院支援を目指しタスクシフト・多職種連携を実施して～
高橋 早知子（福井大学医学部附属病院 看護部）
- P1-04 医療材料誤請求削減のための教育とその成果
～リーダー看護師へ研修を実施して～
伊藤 友美（岐阜大学医学部附属病院 看護部）
- P1-05 循環器内科・心臓血管外科病棟の急変事例の傾向と分析
～迅速な初期対応へつなげる改善策～
神馬 千穂（秋田大学医学部附属病院 看護部）
- P1-06 重症度、医療・看護必要度Ⅱへの移行に向けての取り組み
～必要度ⅠとⅡの A 項目評価の相違点からみた課題～
柏崎 由美（富山大学附属病院 看護部）
- P1-07 情報共有のツールを一元化し褥瘡予防ケアの充実を図る
井上 敬子（富山大学附属病院 看護部）
- P1-08 患者情報収集ツールと看護添書の見直し
南里 美貴（佐賀大学医学部附属病院）
- P1-09 入院前からの積極的な入退院支援体制づくりに関する報告
鈴木 樹美（東京大学医学部附属病院 看護部）

- P1-10 看護指示マスタの見直し
牟田口 朋子 (佐賀大学医学部附属病院 看護部)
- P1-11 注射実施時の患者間違いアラートに対するヒヤリハット報告の分析
伊藤 幸子 (福井大学医学部附属病院 看護部)
- P1-12 新採用者向けシステム研修の効果
～指導者の評価に焦点をあてて～
壬生 季代 (高知大学医学部附属病院 看護部)
- P1-13 システムリプレース時の看護部の情報システム担当としての経験
齋藤 凡 (東京大学医学部附属病院 看護部)
- P1-14 患者の意思決定をつなぐ外来支援と外来看護記録の取り組み
川尻 愛子 (秋田大学医学部附属病院)
- P1-15 ADL 情報の共有における動画利用の試行
～動画を利用したサマリーシステムの開発に向けて～
大塚 慎平 (福井大学医学部附属病院)
- P1-16 患者が見える看護サマリー作成にむけた取り組み
鈴木 恵子 (秋田大学医学部附属病院 看護部)
- P1-17 新採用者への電子カルテシステム研修プログラムの改善報告
櫻井 倫代 (山口大学医学部附属病院 看護部)
- P1-18 看護記録質向上のための入院時カンファレンス記録定型文導入
～入院時カンファレンス記録定型文作成・導入を試みて～
川本 宏行 (熊本大学病院 看護部)
- P1-19 衣類・タオル・紙おむつ等日額定額制レンタル導入における個人情報保護
内田 緑 (信州大学医学部附属病院 看護部)
- P1-20 退院支援カンファレンスの効果
～退院支援能力の向上を目指して～
中村 由美子 (秋田大学医学部附属病院 看護部)
- P1-21 安全で適切な患者の療養環境の整備
～看護補助者と取り組む患者の療養環境整備について考える～
門間 文 (秋田大学医学部附属病院 看護部)
- P1-22 当院の看護過程における看護計画の評価について
～アンケートから得られた定期カンファレンスの現状と課題～
谷川 徹也 (熊本大学病院)
- P1-23 継続した看護計画運用の現状
～看護計画は誰のために、何のために立案しているのか～
永田 真道 (滋賀医科大学医学部附属病院 看護部)
- P1-24 データの二次利用を目指したマスタ設定と運用のピットホール
～痛み・不穏・せん妄の経過表マスタの事例報告～
篠原 弘枝 (信州大学医学部附属病院 看護部)

- P1-25 行動制限を最小限にする取り組み
～テンプレート記載の身体拘束スコアシートを作成して～
佐々木 ひとみ（秋田大学医学部附属病院 医療安全管理部）
- P1-26 患者が見える看護サマリを目指した取り組み
～患者・家族の思いを繋ぐために A 病院における看護記録・情報委員会の取り組み～
中山 真澄（秋田大学医学部附属病院 看護部）
- P1-27 患者参画型看護計画の実践の継続と質向上を図るための取り組み
藤原 紗恵子（秋田大学医学部附属病院 看護部）
- P1-28 重症度、医療・看護必要度の根拠となる看護記録をするために
～看護指示の入力状況から検討する～
長井 健士朗（秋田大学医学部附属病院 看護部）
- P1-29 外来看護記録を充実させるための電子カルテ機能について
西田 菜都子（京都大学医学部附属病院）
- P1-30 看護記録の効率化をはかる取り組み
～働き方改革の視点から～
足立 佳子（鳥取大学医学部附属病院 看護部）
- P1-31 意思決定支援に必要なコミュニケーション技術の習得
木村 公恵（鳥取大学医学部附属病院 看護部）
- P1-32 記録の効率化に向けた取り組み
岸山 好美（長崎大学病院 看護研修センター）
- P1-33 問題意識シートを活用した課題の明確化に向けた取り組み
石川 陽子（秋田大学医学部附属病院 感染制御部）
- P1-34 A 病院救急外来の対応困難症例の解決へ向けた取り組み
～地域医療患者支援センター・がん相談支援センターとの連携を通して～
白川 羽純（秋田大学医学部附属病院 看護部）

2 診療情報管理

ポスター B 会場(3階 天平の間)

- P2-01 診療録の質的監査による病名の適正記載についての検討
田浦 直太（長崎大学病院 医療情報部）
- P2-02 病院に役立つ診療情報管理を目指して
東森 由佳（東北大学病院 医療情報室）
- P2-03 災害対策本部組織図の改編と本部ロジスティクス能力の強化
貝塚 伴子（千葉大学医学部附属病院 企画情報部）
- P2-04 インフォームドコンセントの実施状況の監査への取り組みと現状
橋本 麻紀子（大阪大学医学部附属病院 医療情報部）
- P2-05 紹介患者の返書率向上について
森谷 翔太（岡山大学病院 医事課）

- P2-06 診療録の量的点検と質的点検の見直し
～診療録管理室の立場から～
飯塚 幸輝（岐阜大学医学部附属病院 診療録管理室）

3 病院情報システム

ポスター B 会場(3階 天平の間)

- P3-01 DPC を活用した効率的な病床管理システムの構築
～エクセルのマクロ機能を使用したシステム～
中平 伸一（高知大学医学部附属病院 入退院支援センター）
- P3-02 電子カルテ端末への統計解析ソフトウェア SPSS 導入
～大学資産を活用した、診療情報の保護ならびに活用促進へ向けた取り組み～
中野 まどか（香川大学医学部附属病院 医療情報部）
- P3-03 認証システムの設定不備により生じた無線 LAN 障害の事例
中原 孝洋（九州歯科大学附属病院 共通基盤教育部門）
- P3-04 レポート既読管理機能の実装と運用による効果
佐野 龍樹（三重大学医学部附属病院 医事課）
- P3-05 部門システムと画像システムのサーバハードの分離入札とクラウド化
～病院情報システムの効率的導入と運用の提案～
近藤 博史（鳥取大学医学部附属病院 医療情報部）
- P3-06 サーバ室における冷却能力の検証
～消費電力及び設備投資の適正化の観点から～
藤田 健一郎（京都大学医学部附属病院 経営管理課）
- P3-07 生体情報モニター関連記録作成促進機能導入の効果と実記録の検証
岡本 有希（国立大学法人三重大学医学部附属病院 医事課）
- P3-08 問合せ対応管理システムにおける対応遅延アラートの効果
～病院情報システムの持続的な発展に資する管理運用体制強化のために～
佐川 静子（秋田大学医学部附属病院 医事課）
- P3-09 麻薬管理システムの問題点に対する継続的な取り組み
岡本 明大（三重大学医学部附属病院 薬剤部）
- P3-10 入院時支援業務拡大に伴うワークフローシステムの再構築
坂井 清太郎（九州大学病院 メディカル・インフォメーション
センター）
- P3-11 仮想 HIS 端末による電子カルテ参照機能の構築
吉崎 真司（九州大学病院 メディカル・インフォメーションセ
ンター）
- P3-12 薬剤部門の電子カルテ情報収集のための自作システム開発
後藤 芳美（大分大学医学部附属病院 医療情報部）
- P3-13 当院におけるロボット搬送システム
山下 暁士（名古屋大学医学部附属病院 メディカル IT センター）

4 薬剤

ポスター A 会場(4階 放光の間 ホワイエ)

- P4-01 院内製剤調製支援システムの開発
炭本 隆宏 (大分大学医学部附属病院 薬剤部)
- P4-02 抗がん剤レジメンオーダーシステムにおける前日確定運用の構築
河内 佑樹 (長崎大学病院 薬剤部)
- P4-03 高齢者の医薬品管理ツールの開発と業務効率化
石田 俊介 (徳島大学病院 薬剤部)
- P4-04 電子カルテに於ける薬剤アレルギー情報の活用と安全管理上の問題点
～剤形違いの薬剤アレルギーチェックの問題点とその対策～
本多 立 (三重大学医学部附属病院 薬剤部)
- P4-05 薬剤成分グループによるアレルギーチェック機能とマスタの開発
岩穴口 孝 (鹿児島大学病院 医療情報部)
- P4-06 一包化調剤時間の調査と自動錠剤監査システムによる時間短縮効果の検討
五十嵐 敏明 (福井大学医学部附属病院 薬剤部)

5 病院マネジメント (事務)

ポスター C 会場(3階 弥生の間)

- P5-01 医療の質改善文化の醸成
～ e-learning 教材を用いた ISO 教育の推進～
石塚 邑美 (筑波大学附属病院 病院総務部 品質・安全管理課)
- P5-02 災害時における多数傷病者受け入れのための情報マネジメント
～群馬大学災害時業務調整担当職員 (GLAST 隊員) 養成研修～
添田 慎介 (群馬大学 昭和地区事務部)
- P5-03 東大病院患者サロンの成長
越智 由貴 (東京大学医学部附属病院 医療運営課総合患者サー
ビス担当)
- P5-04 医療材料の適正価格
～その交渉のやり方でいいですか?～
久保 直毅 (高知大学 医学部・病院事務部)
- P5-05 院内がん登録業務の安定的運営に関する考察
～途切れることなく継続させていくための「ヒト」「モノ」「カネ」～
大野 美香子 (京都大学医学部附属病院 医務課)
- P5-06 看護必要度Ⅱの届け出に向けた取り組み
～診療 DWH を用いた必要度集計用データベースの構築～
渡邊 寿史 (信州大学医学部附属病院 医事課)
- P5-07 患者データを用いた肝がん・重度肝硬変治療研究促進事業の取り組み
～肝がん・重度肝硬変患者への支援～
宮原 崇行 (三重大学医学部附属病院 医事課)

- P5-08 浜松医科大学での医療材料購入費削減の取り組みについて
天弘 藍子 (浜松医科大学病院 経営支援課)
- P5-09 地域のシンクタンク機能も兼ねた院内経営コンサルティング部門の設置
～神戸大学医学部附属病院 情報分析推進室の役割～
國吉 徹也 (神戸大学医学部附属病院 情報分析推進室)
- P5-10 千葉大学医学部附属病院における精神科収入改善への取り組み
渡邊 直広 (千葉大学医学部附属病院)
- P5-11 クラウド型業務改善ツールを利用した受発注管理システムの開発について
青木 克義 (信州大学医学部附属病院)
- P5-12 2018年度国立大学病院における医療機器の共同調達事業実施報告
山口 拳史 (東京大学医学部附属病院)
- P5-13 経営指標の統計学的分析
～重回帰分析による新入院患者数の回帰モデル作成～
杉野 剛史 (京都大学医学部附属病院 経営管理課)
- P5-14 DPC 導入の影響評価に係る調査における初回提出後のデータチェック確認事項
削減の取り組み
櫻庭 和弥 (秋田大学医学部附属病院 医事課)
- P5-15 衣類・タオル・紙おむつ等日額定額制レンタル導入による効果と課題
雨宮 純馬 (信州大学医学部附属病院 経営推進課)
- P5-16 処置行為を実施入力することによりコスト算定へつなぐ取り組み
～より精度の高い DPC データを提出するために～
丸田 一貴 (旭川医科大学病院 経営企画課)
- P5-17 一般病棟用重症度、医療・看護必要度Ⅱに変更後の現状と課題
原田 慎也 (旭川医科大学病院 医療支援課)
- P5-18 看護学生修学資金・看護職員就職支度金制度について
～自大学からの看護師・助産師の確保を目指して～
長谷川 公栄 (弘前大学医学部附属病院 経営企画課)
- P5-19 弘前大学医学部附属病院におけるインセンティブ経費の取組状況
～「努力の見える化」と「職員の一体化」を両立する～
土橋 大典 (弘前大学医学部附属病院 経営企画課)
- P5-20 東京大学医学部附属病院における休日診療の収支分析について
細川 敬貴 (東京大学医学部附属病院 経営戦略課)
- P5-21 令和元年度 HOMAS2 の取り組みについて
栗本 真奈 (東京大学医学部附属病院 経営戦略課)
- P5-22 平成 30 年度経営方針と経営指標目標
～病床稼働率目標 95% の取組～
原之園 さつき (鹿児島大学病院 事務部)
- P5-23 システムと医事課職員によるレセプト返戻対策の試み
林 亜矢子 (鳥取大学 米子地区事務部 医事課)

- P5-24 病院機能指標の公表における更新状況について
守野 隆寛（東京大学医学部附属病院 国立大学病院データベースセンター）
- P5-25 知識提供機能を用いたオンラインマニュアルサイトの構築について
難波 孝宏（岐阜大学医学部附属病院 医療情報係）
- P5-26 効果的な業務委託の実現に向けて
～病院の広範囲に及ぶ業務委託を統合し円滑に機能させるために～
宇都 由美子（鹿児島大学病院 医療情報部）
- P5-27 『経営のできる大学病院幹部養成プログラム』の取り組みと展望
～病院・学部、教員・職員が連携して『課題解決型高度医療経営人材育成事業』を運営する～
井田 有亮（東京大学大学院）
- P5-28 Robotic Process Automation (RPA) 活用による病院間の患者情報連携推進化
～くまもとメディカルネットワークを用いた情報連携～
中畠 慶（熊本大学病院 医事課）
- P5-29 DPC データで見る栄養部門の活動状況について
～経営分析システム A# 活用の一事例～
星本 弘之（東京大学医学部附属病院 国立大学病院データベースセンター）
- P5-30 医療の質向上の取り組みをマネジメントする事務部門として
～病院機能評価「一般病院3」の受審を通じて～
熊木 篤（滋賀医科大学 クオリティマネジメント課）
- P5-31 入退院予定の電子カルテ入力が稼働率へ与える影響
森岡 賢史（大阪大学医学部附属病院 管理課）
- P5-32 千葉大学医学部附属病院における事務業務の RPA 化について
～実証実験結果と予測される課題～
菊谷 達也（千葉大学医学部附属病院 総務課）
- P5-33 部署横断での勉強会開催の取り組み
～事務職員のスキルアップのために～
加藤 真嗣（浜松医科大学医学部附属病院 医事課）

6 検査

ポスター A 会場(4階 放光の間 ホワイエ)

- P6-01 中央集約型と分散型の併用による医療情報共有のためのトラスト（信頼関係）の評価法
松下 一之（千葉大学医学部附属病院 検査部）

7 臨床研究・治験

ポスター B 会場(3階 天平の間)

- P7-01 Metabase を用いた電子的臨床研究データ収集システム内の情報可視化
木島 真一 (九州大学大学院)
- P7-02 汎用データベースソフトウェアを用いた治験管理システムの構築
～放射線関連検査の治験管理～
小泉 幸司 (京都大学医学部附属病院 放射線部)
- P7-03 多施設にわたる臨床観察研究を包括的に支援する事業について
高田 敦史 (九州大学病院 メディカルインフォメーションセンター)
- P7-04 抗がん剤治験薬の管理および調製における分業・専業化と連絡体制の構築
坂元 利彰 (長崎大学病院 薬剤部)
- P7-05 治験で生じた重要な逸脱事例の多施設共同調査
叶 隆 (福島県立医科大学附属病院 臨床研究センター)

8 地域連携

ポスター A 会場(4階 放光の間 ホワイエ)

- P8-01 地域に選択される病院への取り組み
～返書管理システムによる返書作成状況の見える化～
福島 実 (京都大学医学部附属病院 医務課)